



## 2023年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社総医研ホールディングス  
コード番号 2385 URL <http://www.soiken.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石神 賢太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 十河 健一

TEL 06-6871-8888

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	4,223	18.0	344	41.0	345	45.1	209	49.6
2022年6月期第2四半期	5,150	7.0	584	5.6	629	0.5	414	6.7

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 213百万円 (49.4%) 2022年6月期第2四半期 421百万円 (4.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	8.00	
2022年6月期第2四半期	15.86	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	7,969	6,929	84.4
2022年6月期	8,489	6,847	78.3

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 6,726百万円 2022年6月期 6,647百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期		0.00		5.00	5.00
2023年6月期		0.00			
2023年6月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,100	13.3	850	29.7	850	32.2	550	32.1	21.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年6月期2Q	26,158,200 株	2022年6月期	26,158,200 株
期末自己株式数	2023年6月期2Q	0 株	2022年6月期	0 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年6月期2Q	26,158,200 株	2022年6月期2Q	26,158,200 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動が徐々に正常化しつつありますが、急激な為替変動や資源・エネルギー価格の高騰などにより、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

我が国では、社会の高齢化を背景として医療費の増加が続く中、医療の効率的運営や予防医療の推進が必須の課題となっています。このような状況下、医療の適正かつ効率的な運用を目指す「EBM」(Evidence Based Medicine＝科学的根拠に基づく医療)の気運が高まっているほか、国策としても、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導の導入、全ての健康保険組合等における「データヘルス計画」(レセプト等のデータ分析に基づいた保健事業)の策定及び実施の義務付け等が行われています。また、食品等の機能性表示の規制が緩和され、企業責任によりエビデンス(科学的根拠)をもとに食品等に機能性を表示できる機能性表示食品制度が施行される等、当社グループの事業への追い風となり得る環境の変化が生じています。

このような状況下、当社グループでは、大学発のバイオマーカー技術に基づくエビデンスの構築と活用に関する実績やノウハウ、医学界や医療界における幅広いネットワーク等を活かし、医薬、食品、化粧品、ヘルスケア関連サービス等の様々な領域において、社会のニーズに対応した商品やサービスを開発して提供することにより、事業の拡大を図ってまいりたい方針であります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### (生体評価システム)

生体評価システム事業のうち評価試験事業におきましては、主に食品の有効性及び安全性に関する臨床評価試験の受託手数料等107百万円(前年同期比0.5%増)の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高127百万円(前年同期比30.0%減)、当第2四半期連結会計期間末の受注残高は150百万円(前年同期末比16.3%減)となりました。

生体評価システム事業のうち医薬臨床研究支援事業におきましては、主に糖尿病領域の医師主導型臨床研究の支援業務の受託手数料等151百万円(前年同期比21.5%増)の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高72百万円(前年同期比64.0%減)、当第2四半期連結会計期間末の受注残高は158百万円(前年同期末比57.7%減)となりました。

これらの結果、生体評価システム事業の業績は、売上高258百万円(前年同期比11.8%増)、営業利益31百万円(前年同期は6百万円の営業損失)となりました。

#### (ヘルスケアサポート)

ヘルスケアサポート事業は、特定保健指導の受託を中心として、企業における社員の健康管理・増進のニーズや個人の健康意識の高まり等に関連した様々なサービスを健康保険組合等に提供する事業であり、生活習慣病の専門医から成る組織である一般社団法人専門医ヘルスケアネットワークと共同で事業展開しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、特定保健指導、被扶養者を対象とした特定健康診査のサポート、糖尿病の重症化予防サービス、レセプト解析の受託手数料等314百万円(前年同期比0.2%減)の売上計上を行いました。

また、受注状況につきましては、受注高314百万円(前年同期比0.2%減)、当第2四半期連結会計期間末の受注残高はありませんでした(前年同期末はなし)。なお、この事業の受注高は、主に特定保健指導の実績等に応じて事後的に決まるものでありますので、契約締結時点ではなく、当該実績等が確定した時点で計上しております。

この結果、ヘルスケアサポート事業の業績は、売上高314百万円(前年同期比0.2%減)、営業利益45百万円(前年同期比12.2%減)となりました。

#### (化粧品)

化粧品事業におきましては、通信販売部門の売上高は、広告施策等により挺入れを図ったものの販売の減少傾向が続き、71百万円(前年同期比15.6%減)となりました。一方、卸売部門の売上高は、中国市場向け商品の販売が、現地国内メーカーの台頭による競争激化の影響等を受け、1,888百万円(前年同期比27.1%減)となりました。

この結果、化粧品事業の業績は、売上高1,960百万円(前年同期比26.8%減)、営業利益398百万円(前年同期比39.6%減)となりました。

#### (健康補助食品)

健康補助食品事業におきましては、2009年3月より、「疲労定量化及び抗疲労食薬開発プロジェクト」から生まれた製品である「イミダペプチド」を販売しており、主力の飲料のほか、ソフトカプセル、錠剤等の多種多様な商品ラインナップを有しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、例年と同様、疲労回復のニーズが高く、広告出稿に対する反応が良好である夏場に合わせて集中的に広告宣伝費を投下し、販売の一層の拡大を図りました。当第2四半期連結累計期間においては、費用対効果の確実性の高い媒体を厳選して広告出稿を行った結果、広告宣伝費の投下が計画に対して未消化となったことに加え、広告料の高騰等により広告効率が悪化したこと等から、新規顧客の獲得数は前年同

期を下回り、売上高は前年同期及び計画ともに下回りました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、広告宣伝費の投下ならびに初回購入者に対する割引及び送料無料の適用等により売上高に比して費用が先行した形となり、営業損失を計上しましたが、当第2四半期連結累計期間に先行した費用については、第3四半期連結会計期間以降はリピート購入により回収され、利益に寄与する見通しであります。

この結果、健康補助食品事業の業績は、売上高1,413百万円（前年同期比9.9%減）、営業損失は17百万円（前年同期は22百万円の営業損失）となりました。

（機能性素材開発）

機能性素材開発事業におきましては、ラクトフェリンをはじめとする機能性素材の開発、販売及び技術供与等を行っており、ラクトフェリン原料の販売、ラクトフェリンの腸溶加工技術及び脂質代謝改善用途に関する特許提供によるライセンス収入、ラクトフェリン等を配合した健康補助食品のOEM供給等による売上を計上しております。

当第2四半期連結累計期間においては、ラクトフェリン原料の販売数量が伸び悩んだこと等から、売上高が減少傾向で推移しました。

この結果、機能性素材開発事業の業績は、売上高276百万円（前年同期比22.7%減）、営業利益は42百万円（前年同期比32.4%減）となりました。

これらに加えまして、セグメント間取引の消去や全社費用による営業損失は155百万円（前年同期は161百万円の営業損失）となりましたので、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は4,223百万円（前年同期比18.0%減）、連結営業利益は344百万円（前年同期比41.0%減）、連結経常利益は345百万円（前年同期比45.1%減）、税金等調整前四半期純利益は345百万円（前年同期比45.0%減）となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は209百万円（前年同期比49.6%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて520百万円減少（6.1%減）し、7,969百万円となりました。これは主に、その他流動資産が107百万円増加したものの、現金及び預金が484百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が79百万円、原材料及び貯蔵品が43百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて602百万円減少（36.7%減）し、1,039百万円となりました。これは主に、買掛金が269百万円、未払法人税等が180百万円、その他流動負債が79百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて82百万円増加（1.2%増）し、6,929百万円となりました。これは主に、配当金の支払により利益剰余金が130百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を209百万円計上したこと等によるものであります。

（3）キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ484百万円減少し、5,532百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、327百万円（前年同期は1,232百万円の獲得）となりました。これは主に法人税等の支払額356百万円、仕入債務の減少額269百万円、未払消費税等の減少額94百万円等によるものであります。税金等調整前四半期純利益345百万円の計上、売上債権の減少額79百万円等により一部相殺されております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、27百万円（前年同期は23百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出21百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、129百万円（前年同期は129百万円の使用）となりました。これは配当金の支払額129百万円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、化粧品事業における中国市場向け商品の販売に関して、現地国内メーカーの台頭による競争激化の影響等から売上高が計画対比で未達となったことを主因として、売上高、利益とも計画を下回る進捗となりました。

通期の連結業績予想につきましては、2023年2月1日に修正した数値のとおり予想しております。

なお、当該業績予想は、新型コロナウイルス感染症の広がりによる業績への影響について、現時点において見込まれるものは織り込んでおり、また、現在の状況が継続することを前提としておりますが、今後の状況の悪化により業績予想に重要な変動が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,017,253	5,532,396
受取手形、売掛金及び契約資産	775,515	696,109
有価証券	200,000	200,000
商品	645,192	653,647
仕掛品	255,402	229,881
原材料及び貯蔵品	231,147	187,196
その他	76,228	184,024
貸倒引当金	△4,208	△27
流動資産合計	8,196,532	7,683,228
固定資産		
有形固定資産	36,375	52,792
無形固定資産		
その他	49,290	50,466
無形固定資産合計	49,290	50,466
投資その他の資産		
投資有価証券	20,738	20,738
その他	186,587	161,993
投資その他の資産合計	207,326	182,731
固定資産合計	292,992	285,991
資産合計	8,489,524	7,969,219
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	459,693	190,000
未払法人税等	291,293	110,944
契約負債	534,015	460,190
その他	339,658	259,931
流動負債合計	1,624,660	1,021,066
固定負債		
退職給付に係る負債	17,496	18,271
固定負債合計	17,496	18,271
負債合計	1,642,157	1,039,338
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,836,587	1,836,587
資本剰余金	1,899,955	1,899,955
利益剰余金	2,911,255	2,989,669
株主資本合計	6,647,798	6,726,212
非支配株主持分	199,568	203,668
純資産合計	6,847,367	6,929,881
負債純資産合計	8,489,524	7,969,219

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	5,150,509	4,223,839
売上原価	2,785,877	2,200,652
売上総利益	2,364,632	2,023,187
販売費及び一般管理費	1,780,373	1,678,663
営業利益	584,259	344,523
営業外収益		
受取利息	25	183
受取賠償金	44,787	216
その他	2,085	993
営業外収益合計	46,897	1,393
営業外費用		
為替差損	1,878	—
その他	33	566
営業外費用合計	1,912	566
経常利益	629,243	345,351
特別損失		
減損損失	1,350	—
固定資産除却損	—	61
特別損失合計	1,350	61
税金等調整前四半期純利益	627,893	345,289
法人税、住民税及び事業税	199,456	107,527
法人税等調整額	7,031	24,456
法人税等合計	206,488	131,984
四半期純利益	421,405	213,305
非支配株主に帰属する四半期純利益	6,417	4,100
親会社株主に帰属する四半期純利益	414,987	209,204

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	421,405	213,305
四半期包括利益	421,405	213,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	414,987	209,204
非支配株主に係る四半期包括利益	6,417	4,100

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	627,893	345,289
減価償却費	9,443	9,213
のれん償却額	1,974	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,884	△4,180
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	432	775
受取利息	△25	△183
受取賠償金	△44,787	△216
減損損失	1,350	—
固定資産除却損	—	61
売上債権の増減額 (△は増加)	△566,019	79,405
棚卸資産の増減額 (△は増加)	568,604	61,017
未収消費税等の増減額 (△は増加)	24,804	△3,863
仕入債務の増減額 (△は減少)	208,762	△269,692
契約負債の増減額 (△は減少)	316,340	△73,825
未払消費税等の増減額 (△は減少)	92,666	△94,219
その他	△77,478	△21,353
小計	1,167,846	28,229
利息の受取額	22	179
賠償金の受取額	44,787	216
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	19,544	△356,523
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,232,200	△327,897
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	—	△400,000
有価証券の償還による収入	—	400,000
有形固定資産の取得による支出	△4,272	△21,152
無形固定資産の取得による支出	△19,080	△5,768
差入保証金の差入による支出	—	△102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,352	△27,023
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△129,469	△129,936
財務活動によるキャッシュ・フロー	△129,469	△129,936
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,079,378	△484,857
現金及び現金同等物の期首残高	4,255,805	6,017,253
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,335,183	5,532,396

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用）

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2021年7月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	健康補助 食品	機能性素材 開発	計		
売上高								
一時点で移転 される財	134,681	314,923	2,677,275	1,568,557	357,720	5,053,159	900	5,054,059
一定の期間に わたり移転さ れる財	96,450	—	—	—	—	96,450	—	96,450
顧客との契約 から生じる収益	231,132	314,923	2,677,275	1,568,557	357,720	5,149,609	900	5,150,509
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	231,132	314,923	2,677,275	1,568,557	357,720	5,149,609	900	5,150,509
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	2,638	2,638	△2,638	—
計	231,132	314,923	2,677,275	1,568,557	360,359	5,152,248	△1,738	5,150,509
セグメント利益 又は損失 (△)	△6,034	51,785	659,140	△22,135	63,124	745,880	△161,621	584,259

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額900千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△161,621千円には、全社費用△189,221千円、セグメント間取引消去26,700千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（単位：千円）

	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	健康補助 食品	機能性素材 開発	全社・消去	合計
減損損失	1,350	—	—	—	—	—	1,350

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2022年7月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	健康補助 食品	機能性素材 開発	計		
売上高								
一時点で移転 される財	133,886	314,241	1,960,299	1,413,450	276,511	4,098,389	900	4,099,289
一定の期間に わたり移転さ れる財	124,550	—	—	—	—	124,550	—	124,550
顧客との契約 から生じる収益	258,436	314,241	1,960,299	1,413,450	276,511	4,222,939	900	4,223,839
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	258,436	314,241	1,960,299	1,413,450	276,511	4,222,939	900	4,223,839
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	2,547	2,547	△2,547	—
計	258,436	314,241	1,960,299	1,413,450	279,058	4,225,486	△1,647	4,223,839
セグメント利益 又は損失 (△)	31,518	45,490	398,195	△17,884	42,700	500,018	△155,494	344,523

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額900千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△155,494千円には、全社費用△183,094千円、セグメント間取引消去26,700千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。